

「布施城跡から文化遺産を考えよう」

奈良教育大学「学ぶ喜びプロジェクト」 北村 恭康

1. ESDを生かした授業づくり

(1) 単元名・学校種と学年

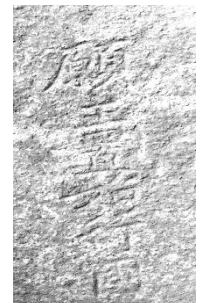
「布施城から文化遺産を考えよう」 小学校 第6学年

(2) 単元の概要

本単元は、地域に残る「布施城跡」を通して、地域に愛着を持ち、地域を大切に思う心情を養うと共に、持続可能な社会の担い手としての資質や価値観を養うものである。そのために、実際に城跡に登りどのような自然環境の下にあるのか、削平された平場(郭)はどのようになっているのか、どのように繋がっているのか、堀切はどうなっているのか等の現状を見学や調査活動を通して学びとらせると共に、保存活動に取り組んでいる人々や地域の歴史博物館の学芸員さんへのインタビューから城跡に対するそれぞれの思いに気付かせたい。

「布施城跡」は、葛城市新庄町寺口の葛城山中腹の尾根にある。布施氏が築城したものと言われているが年代は不明である。布施氏は置始氏(おきそめし)の流れをくみ、一乗院の配下で、平田庄荘官の一人でもある。平田庄は概ね現在の大和高田市・葛城市・広陵町地域に散在し、荘官には他に万歳氏、中村氏、高田氏、岡氏の名が至徳元年(1384)の「長川流鏑馬日記」に見える。これら各氏が平田党を構成し、春日若宮祭礼(おん祭り)の流鏑馬願主六党の一党を担っていたのである。

置始氏の文字は、布施氏の氏寺でもある置恩寺(布施寺)の石灯籠(1502)に「置始行国」の名がみえ、また、多聞院日記の永正3年(1506)には、安位寺(御所市)の復興のための勸進帳に「布施安芸守行国」の名がある。



石灯籠銘文

戦国時代の奈良県は、松永久秀が1560年多聞山城を築き大和の攻略を開始していた。1565年には筒井城を攻め、筒井順慶は布施城に逃れた。その一方で布施氏は松永方の高田郷を焼き払ったことなど、大和においても松永・筒井の攻防の様子が伺える。布施氏は1868年に織田信長配下となった松永久秀に布施城下を焼き払われ、翌年には一戦を交えたがよく守り、また、1571年には松永方の高田城の出城を攻め落としている。地域史としての布施城ではあるが、布施氏は織田信長・筒井順慶・松永久秀との関連も見られ、戦国時代の学習を布施城から俯瞰することも可能である。

このような歴史に包まれている布施城ではあるが、現在の姿は下草に覆われ樹木の中に隠れている。城跡は上から下へ500mほど郭が階段状に連なり、途中で南側へ分岐しているが、単純な作りである。また、各郭の南側にハイキングコースを兼ねた林道が掘削されたおり、郭の南側が破壊されている。城といえば天守や石垣を思い起こすだろうが、布施城は土から成る城である。築城年代は不明であるが、1582年布施氏が秀吉に切腹させられてからでも四百有余年経て、今なお存在

している。

私が初めて城跡に登ったとき、地元の人に聞くと「平らなところはあるがなにもないよ」と言われた。おそらく多くの地元の人も認識はこのようなものであろう。しかし、立地環境からか開発は免れて残っていたが、忘れかけられていた遺産でもある。その存在に気付いた時、一部の地域住民が町の遺産を残していきたいという思いから、年数回の下草刈り、案内板の設置などのボランティア活動が始まった。(連携性) これらの活動には、布施城を少しでも多くの人々に知ってもらいたい、見学を通して遺跡の大切さや共有の文化財であるという認識を持ってもらい、未来に残していきたいとする思いが込められている。学習を通して、これらの活動の大切さ、必要性を考えていきたい。また、城跡の地理的条件から近年の気候変動の降雨により、地崩れや多人数による無秩序な入山により変化すること(有限性)を理解させたい。また、これらの活動を学び、城跡に登山することを通して、自分はどうか城跡の未来像を描き、どう行動すべきか、さらに、地域に存在する文化遺産とどう付き合っていくのかを考えさせていきたい。(責任性)

【持続可能な社会づくりの概念構成】

構成概念Ⅲ	有限性	山城の現存は自然環境や人為的な環境により変化する。
構成概念Ⅴ	連携性	城跡を守るには多くの人が繋がり、協働することにより成し遂げられる。
構成概念Ⅵ	責任性	城跡を未来に伝えていくためのビジョンを考え、自分のできることを行動に移していく。

2. ESDの観点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標(重視する能力・態度)

《未来》

城跡が現在まで残ってきたことを基に、有限の環境要因を考えながらどのような形で将来にわたって伝えていくか考えることが出来る。

《多面》

城跡を通して、文化財の大切さを考え、保存するには人・自然・地域社会・社会組織等を多面的、総合的に考えることが必要であることが分かる。

《伝達》

城跡の保存に向けて、地元住民や山持へのインタビューやグループでの調査活動の結果を基にして、他者の考えも聞き入れながら、自分の活動方法を精査し伝えることが出来る。

《参加》


城跡の現地調査や各地の城跡の保存、活用の様子を調べ、自分のすべき役割を自覚し、主体的に取り組む実践力を養う。

(2) 評価規準

未来（興味・関心）ア	伝達（思考・判断・表現）イ	参加（技能）ウ	多面（知識理解）エ
① 城跡に興味を持ち、進んで調べたり、話し合ったりしている。 ② 未来へ伝えていくのは、自分だとの自覚を持とうとしている。	① 学習を通して、遺産を保存する大切さを考え、発信している。 ② 学習を通して、自分自身の考えの変容について表現している。	① 城跡を見学し、各種の情報を集めて、自分の役割を自覚しながら取り組もうとしている。	① 文化財を守り残そうと努力する大切さを理解している。 ② 保存するには、人と社会のつながりが必要であることを理解している。

(3) 単元の計画（全12時間）

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
1	○地域の文化財と思うものをあげる。 （事前のアンケート結果でもよい）	◇時代、種類に関係なく児童の思うものを上げさせる。
2	○姫路城のDVDを視聴する。※1 ○写真から下草刈りを行っている場所を想像する。	◇布施城であることを知らせ、下草刈りの苦労を想像させる。 ◇布施城の縄張り図、1/25000 地形図から想像させる。 ◆アー①
	○布施城の位置と構造を知る。 ○学習課題をつくる。	
	観光地でもない布施城跡の下草刈りをなぜしているのだろうか。	

3 4	○城の歴史について知る ○地域の人々の城に対する意識を調査する。 ・学習課題と結びつけながら自分と地域の人々と比較させながら話し合う。	◇布施氏関係の略年表を作成し提示する。 ・織田信長、筒井順慶、松永久秀とも関係していることを見つけさせる。 ◇地域の人々は存在を知っているかにも注視させる。 ◆イー① エー1
5	○城の基本的な名称や用途を知る。	◇城の自作パンフを配り、説明をする。※2 ◆アー①②
6 7 8	○布施城に登城しよう。 ・必ず見るところと共に、自分がすごいと思うところは写真や絵に表し、メモを取る。  ○登城した感想の交流会	◇登城の注意事項 ・服装（長袖・長ズボン）・軍手・リュック ・水筒・配った縄張図・方位磁石・地図 ◇必ず見る個所をはっきりさせる。 ・堀切・郭間のつながり・土塁・堅堀 ◇メモを基に学習課題を含ませながら自分の考えを交流できるようにする。 ◆イー② ウー①
9	○下草刈りのボランティアの人の話を聞こう。 ・なぜ始めたのか。 ・人数をどうやって集めたのか。	◇ボランティアの人が協力し合いながら活動していることを理解させる。 ◇城跡（文化財）への思いを知り、自分の意見と比較させながら、保存について考えさせる。 ◆エー②
10 11 12	○布施城の保存について前時を踏まえて交流しよう。 ・今日まで残ってきた城を未来に残すためにはどうすればよいのか考える。 ○布施城の魅力を他学年の人や地域の人に気付いてもらえるように発信する	◇文化財に対して、自分はどうかかわっていったらよいのか、どう活動していったらよいのかを交流の中心課題とする。 ◇保存活動には、多くの人のつながりが必要であることを理解させる。 ◇活動を評価しさらなる向上を図る。 ◇地域に残る他の文化財も大切にしていかなければならないことを、住民に訴えていく活動につながるようにする。 ◆アー② イー①

参考文献

- ※1 豊かな世界遺産編より 日本ユネスコ協会連盟
 ※2 「布施城のしおり」 葛城市歴史博物館著

奈良県史 11「大和の武士」